

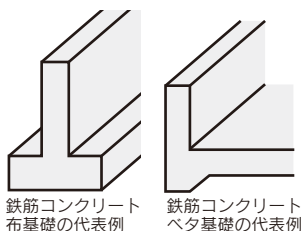
## わが家の耐震診断



**Q** 「大きな地震はいつ来てもおかしくない」と言われていますが、わが家(木造住宅)の簡単な自己診断方法があれば教えてください。

**A** 壁・柱・基礎などの重要部分については、次の通りです。次の項目に該当する場合などは注意が必要です。

- ①1階と2階の壁・柱の位置が一致していない所が多い
- ②壁の位置・面積に偏りがある
- ③壁が一面、開口部(ガラス戸・窓)になっている
- ④基礎が、鉄筋コンクリートの布基礎またはベタ基礎になっていない
- ⑤家の平面図の形がシンプルな四角形ではなく、凹凸が多い



心配な場合、診断は必ず信頼できる建築士に依頼し、必要な耐震補強工事計画を立てましょう。主な工事内容は、壁面・基礎・土台の補強、金物による土台・柱・梁の接合などです。また、市建築指導課(☎20-1564)でも、耐震診断についての相談を受け付けています。

家屋の地震対策としては、倒れてきそうな家具や電化製品を壁などに固定する、寝室にはテレビやたんすなどを置かないなどの工夫をしましょう。

### 悪質な業者に注意

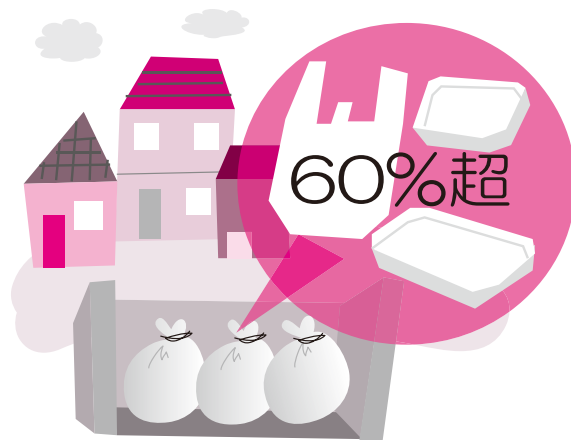
無料点検と言って近付いて、「このままでは家が壊れる」などと不安をあおり、本当は必要がない耐震工事契約をさせる悪質業者には十分注意しましょう。

### 手軽に耐震診断

(財)日本建築防災協会のホームページ(<http://www.kenchiku-bosai.or.jp>)「誰でもできるわが家の耐震診断」では、手軽に耐震診断が行えます。家屋の強度について理解を深めるきっかけとして、ぜひご利用ください。

※くわしくは消費生活センター(☎23-1161)へ。

## そのレジ袋、必要ですか？



日本では、年間約300億枚(一人当たり年間約230枚)ものレジ袋がごみになっており、トレーなども含めた容器包装ごみの量が占める割合は、家庭ごみの容積の6割を超えています。

レジ袋やトレーなどの容器包装は多量のごみとなるだけでなく、製造する際にも、再生・破棄する際にも、地球温暖化につながるCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を排出しています(約300億枚のレジ袋は、東京ドーム約452杯分のCO<sub>2</sub>に相当します)。

環境省では、このような容器包装ごみを削減するためにマイバッグ(「もったいないバッグ」と呼んでいます)や風呂敷を持参して、レジ袋を断ることを呼び掛けています。

一部のスーパーでは、レジ袋が不要であることを示すカードが用意されています。また、コンビニでも購入した商品が少なければ、レジ袋が必要かどうか聞かれることがあります。こうした取り組みに積極的に応えていくことで、少しずつ意識を変えていきましょう。



※くわしくは環境計画課(☎20-1533)へ。